

和辻哲郎

2017 年追試

問 7 西洋の思想や文化が移入されるなかで、独自の倫理学を生み出した和辻哲郎についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

26

- ① 人間はもともと個人として存在するが、他者と共同することによって、社会を成立させると考えた。このような考えに基づき、個人と社会は人間の重要な二つの側面であると主張した。
- ② 社会はそれ自体で存在するが、個人は社会に依存して成り立つにすぎないと考えた。このような考えに基づき、人間を個人として捉える立場を、誤った人間への見方であるとして批判した。
- ③ 人間の個人としての側面と社会としての側面は、両立させることができないと論じた。そのうえで、社会に埋没したあり方を否定して、個人としての存在を確立することこそ、人間にとって最も望ましいとした。
- ④ 人間のあり方は、個人を否定して社会を実現し、社会を否定して個人を実現する動的なもので、個人と社会はそれ自体では存在しないと論じた。そのうえで、人間が個人か社会かの一方にとどまるのは望ましくないとした。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 7 | 26 | ④ | 3 |

2016 年本試

問 2 日本の神についての和辻哲郎の考えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

| |
|----|
| 21 |
|----|

- ① 天皇は神聖にして侵すことのできない神であるから、忠孝一本という道徳に基づいて天皇に奉仕するのが日本人の責務である。
- ② 人は死後に遠い彼方の世界に行くのではなく、身近な山などに^{とど}留まって、子孫を見守る神となり、定期的に子孫のもとを訪れ、^{ほうじょう}豊穡をもたらす。
- ③ 神とは、共同体の外部から来訪し人々の^{きょうおう}饗応を受けて去る存在であり、その様を模倣することで各種の芸能が成立した。
- ④ 日本神話には唯一絶対の究極神は存在せず、最も尊貴な神として祀られるアマテラスであっても、みずから他の神を祀っている。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 2 | 21 | ④ | 2 |

問 8 下線部 h に関連して、次の文章は、和辻哲郎が、「風土」として捉えた自然について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、和辻哲郎の思想を踏まえて、下の①～④のうちから一つ選べ。 27

このような自己了解(風土における自己了解)は、寒さ暑さを感じず「主観」としての「我れ」を理解することではない。……寒さを感じずる時には我々は体を引きしめる、着物を着る、火鉢のそばによる。否、それよりもさらに強い関心をもって子供に着物を着せ、老人を火のそばへ押しやる。あるいは着物や炭を買い得るために労働する。炭屋は山で炭をやき、織布工場は反物を製造する。すなわち寒さとの「かかわり」においては、我々は寒さをふせぐさまぎまの手段に個人的・社会的に入り込んで行くのである。……同様なことは炎暑についても、あるいは暴風・洪水のごとき災害についても言えるであろう。我々はこれらのいわゆる「自然の暴威」とのかかわりにおいてまず迅速にそれを防ぐ共同の手段に入り込んで行く。風土における自己了解はまさしくかかる手段の発見としてあらわれるのであって、「主観」を理解することではない。

(『風土』より)

- ① 私たちは、寒さを感じるときには孤立感を、自然の暴威に立ち向かうときには他者との一体感を感じる。私たちは、風土において、自らの身を犠牲にして間柄的存在として振舞うことを学ぶのである。
- ② 私たちは、寒さ暑さや暴風・洪水をもたらす自然に対して、対抗する手段をもっていない。私たちは、他者とともに関わることを通じて、我々が、忍従的かつ受容的な存在であることを了解するのである。
- ③ 私たちは、寒さ暑さや暴風・洪水をもたらす自然に対して、主観的な立場から対抗策を考えることはできない。私たちは、他者とともに関わることを通じて、自然を客観的に捉えることを学ぶのである。
- ④ 私たちは、寒さを感じるときに、個人的に対策を講じるだけでなく、他者と一緒に寒さを防いでいく。私たちは、風土において、自らが、個人であるとともに共同して生きる存在であることを了解するのである。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|------|----|------|----|----|
| 第3問 | 問8 | 27 | ④ | 3 |

2012 年追試

問 8 和辻哲郎がその著書『倫理学』に示した人間理解の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 人間は個人的存在であるとともに社会的存在である。ゆえに、倫理とは、社会を否定して個としての自己を自覚することと、その自己を再び否定して、社会のために生きようとする事との相互運動である。この運動が停滞すると、利己主義や全体主義に陥る。
- ② 人間は単なる孤立した個人的存在ではなく社会的存在である。ゆえに、倫理とは、社会に背く個としての自己をひたすら否定して、社会に没入し、社会のあり方に従っていく運動である。この運動が失われると、社会的なあり方を軽視した利己主義に陥る。
- ③ 人間は単なる孤立した個人的存在ではなく社会的存在である。ゆえに、倫理とは、個人と社会とを同時に肯定し、個としての自己を保ちつつ社会とのよりよい関係を築いていく運動である。この運動が停滞すると、利己主義や全体主義に陥る。
- ④ 人間は個人的存在であるとともに社会的存在である。ゆえに、倫理とは、社会全体に埋没してしまわない個としての自己を確立し、個人主義を徹底して、同じ個としての他者とのよりよい関係を築いていく運動である。この運動が失われると、個人を抑圧する全体主義に陥る。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 7 | 20 | ① | 3 |

2007 年本試

問 6 和辻の代表的著作の一つに『風土』がある。和辻はその中で自然環境と深い関わりをもつ人間の存在や文化のあり方を「風土」と捉え、三つに分類しているが、その分類として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

19

- ① 大陸型・半島型・島嶼型
- ② 熱帯型・温帯型・寒帯型
- ③ アジア型・ヨーロッパ型・アフリカ型
- ④ モンスーン型・沙漠型・牧場型

問 7 文章中の A に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

近代になると西洋思想と格闘する思想家が現れた。その一人である和辻哲郎は、西洋と東洋の両文化に対する深い理解をふまえて、「和」の問題に新たな照明を当てた。和辻は人間を「間柄的存在」と規定し、人と人との「共同態的」あり方に注目した。これは、共同生活を尊ぶ日本人の伝統的な「和」を再評価したものと言われている。しかし、和辻は、A の大切さを強調したのであった。

- ① 人間を束縛がなければ生きられない存在と認識し、共同体の中に生きる普通の人々に真の人間の生き方をみいだそうとする意志的な努力
- ② 人間が主体性を追求して近代的自我を確立することを訴えるとともに、自我がもつ排他性やエゴイズムを克服しようとする専心的な努力
- ③ 人間同士の多様な関係を統一・分離・結合という動的な連関と捉え、社会と個人との対立的な統一を実現しようとする実践的な努力
- ④ 人間は誰でも各自の人格の陶冶によって個性を発揮させなければなら

ないと考え，社会や人類の発展に寄与しようとする継続的な努力

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|------|----|------|----|----|
| 第3問 | 問6 | 19 | ④ | 2 |
| 第3問 | 問7 | 20 | ③ | 3 |

2005 年本試

問 7 人間を「間柄的存在」と捉えた思想家に和辻哲郎がいる。彼の考えを説明した記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 対^{ついで}なる男女は、それぞれ独立した個人が間柄によって定められた役割を担う共同存在である。その共同体は、嫉妬や裏切りという不合理な感情や行動を否定し、各々がその役割を果たすことで完成される機能的組織である。
- ② 対なる男女は、自他一体的な一つの共同存在である。その共同体は、不信や裏切りという個の背反の可能性を一切もたない純粋な自他和合であり、互いの深い愛情を確信した、私心をもたない男女の間柄的な関係に基づく。
- ③ 対なる男女は、一つの共同体を形成しながら、またそれぞれが独立した個人でもある。その共同体は、それぞれの個が、互いに嫉妬や裏切りを容認しないという双務的契約を結ぶことによって築かれる信頼の共同体である。
- ④ 対なる男女は、それぞれが独立した個人でありながら、また一つの共同存在でもある。その共同体は、不信や裏切りという個の背反の可能性を^{はら}みながら、個がそうした己を否定して自他の合一を目指すところに成立する。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 7 | 26 | ④ | 3 |

2000 年本試

問 4 以下の文は、日本の近代の思想家たちの考え方を述べたものである。これらのうち、和辻哲郎について述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

| |
|----|
| 27 |
|----|

- ① 日本の「常民」の生活文化を明らかにしようとして、日本民俗学を創始したが、地域の多様な文化に関心を示し、伝統的習俗の調査のために全国各地を旅した。
- ② 自己の哲学の根底に坐禅の体験をおいたが、ギリシャ以来の西洋哲学の伝統を広く受容し、マルクス主義や現象学などの現代哲学の提示した問題にも答えようとした。
- ③ 日本の文化には、過去の多様なアジアの文化を保存する「博物館」としての意義があると考えたが、「アジアは一つ」とであると説いて、その文化的共通性を強調した。
- ④ 無名の職人によって作られた日本の「民芸」に新たな美を発見したが、朝鮮の芸術にも同様の価値を見いだして高い評価を与え、朝鮮民族への敬愛を説いた。
- ⑤ 「日本主義」を唱えて、日本の伝統や国情に即した改革を説き、欧化主義を批判したが、一方で広く世界人類の幸福実現に対する日本人の使命の自覚をも強調した。
- ⑥ 奈良の古寺に残る日本古代の仏教芸術に関心を示したが、それらが中国・インド・ギリシャなどにおける古代芸術と多くの共通点をもっていることを指摘した。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 4 問 | 問 4 | 27 | ⑥ | 3 |